

その上、上側から下側から鋸刃を入れると前回失敗の切痕させてしまいうので、フサジを切取ってかまし  
たり、やっと切り直したところで二本の丸太を使って  
板木や桧子にして直した部分と元の部分に添  
わせて仕上り上梁となった。ワイヤーやロープも要  
るかと思つていつか、それはゆ要なく、大樹木の  
空いた所に割き木を添付し、段差を設けて  
すつきりとした径の土乗上りした。

ニウモシの切口に「オの次刈峰行」の標示  
板を取付せ替は上梁の首尾である。  
川島テーフのこの土乗上りを見てどう評価す  
てみようか。

小屋まで戻ると田舎者で隅留りで床当で  
段差を築き、そのあとは4年松の下に移動して  
段差4段と設けする。大ゲンノウで杭はよく  
判りて、かつクリのたものとなるので、遠まきまきは  
各段差の間に一石と詰めたいものである。同様に  
一石の石く土留めといたが、尺面とすると流れて  
しまうのでみよう。手回りのか、つても一石を敷き  
並べて永保する径にしたいもの。

13時30分、一連の作業を終って稲垣に川場ア  
横浜の小林和子さんへ奇贈して頂いてカステ  
ラとヨーギーを沸かしておいしく頂いた。

その内、平治組の皆さんも引揚げて来られ、

帰ったところで川島リーカーから馬田、日本白  
高山を完登したと思ひ込めを授けられ、記念として  
システン野計を贈ること、もとを尋ねられる。  
システン野計といえは平成17年、システン社は  
我々新守山ゆいヨーパの新年に直った  
大峯への奉仕活動と高く評価して下さり  
賞金一百万円に代えて行仙山屋に掲げて  
尺野計も頂戴したのであつた。又  
司野計はエハラクリニツグ(院長)茂守治  
先生の南送祝として奇贈させて頂いたもの  
である。

地御林道大崩壊の跡に構築された班壁  
は地形に応じて湾曲状に陥凹にあふ上、  
ついで。

町屋、平台で泊まる人の工事下で  
通行不能なことも知らず、地中に向けて  
下山したるが、尺野計のことであつたと  
早々に状況を偵察し、ついで仲越えを  
語らい、下平側の取付に梯子段を設け  
し、蔵道と架けたり、平林(中)の  
神やガイルを取付、上平側にも増設を  
設けたものであつた。

分では、すやうは中を驚かすことなく、  
林や行入口ゲートの、町屋相まひは他